

向島 百花園

梅まつり

2/10(土)～3/3日

9:00～17:00 (最終入園 16:30)

◆梅を詠む
お客様に「梅」を題材にした俳句・和歌を俳句帳にお書きいただきます。

◆江戸大道芸
大黒舞い、放下芸(ほうかけい)等の大道芸を披露します。

◆すずめ踊り
初代園主の佐原鞠場出身の地、仙台が発祥で、墨田区ゆかりの浮世絵師、葛飾北斎が描いた「北斎漫画」にも登場している「すずめ踊り」を披露します。

◆野草ウォッチング
講師の解説のもと、園内の野草を観察します。

◆庭さんぽ
～向島百花園の楽しみ方～
職員が向島百花園ならではの草花や庭園風景の楽しみ方をご紹介しますながら、園内を散策して回ります。

◆写真撮影会
◆抹茶・甘酒接待(有料)

◆琴の演奏
◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ



向島百花園WEBサイト

香梅園

梅まつり

2/17(土)～3/3日

◆すみだ親善大使の
◆琴の演奏

◆写真撮影会
◆抹茶・甘酒接待(有料)

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

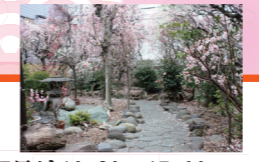
◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ



17日は10:30～15:00、
18日は10:00～15:00
18日以降は10:00～14:30(土・日)



香梅園

墨田区文花2-5-8
●交通 東武亀戸線/小村井駅下車、徒歩5分。
都バス/亀戸-日暮里(里22)「文花2丁目」下車、徒歩5分。錦糸町-青戸車庫(錦37)上野 松坂屋前-平井駅(上23)「文花3丁目」下車、徒歩7分。
●問合せ 香取神社 TEL.03-3612-0878



おみやげ

梅まつり期間中、香取神社境内では梅にちなんだお菓子が販売される。



小村井梅あんぱん



購入者には特製スッカードを配布

梅まつり

2/4日～3/3日

◆梅を詠む
◆江戸大道芸
◆すずめ踊り
◆野草ウォッチング
◆庭さんぽ
◆写真撮影会
◆抹茶・甘酒接待(有料)

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

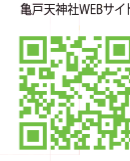
◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ



亀戸天神社WEBサイト

亀戸 天神社

◆梅を詠む
◆江戸大道芸
◆すずめ踊り
◆野草ウォッチング
◆庭さんぽ
◆写真撮影会
◆抹茶・甘酒接待(有料)

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

◆おみやげ

東風吹かば 匂ひおこせよ 梅の花 あるじなしとて 春な忘れそ

江戸時代、亀戸の「梅屋敷」に対して「新梅屋敷」と呼ばれた百花園



花見の名所として 文人墨客が集った名園

●文化人のサロン
日本橋で骨董商人として財を成した佐原鞠場が武家屋敷であった3000坪ほどの土地を買い取り、かねてから親しくしていた文化人の大田南畝(蜀山人、狂歌師)、亀田鵬斎(儒家)、谷文晁(絵師)、大窪詩仏(漢詩人)、加藤千蔭(国学者、書家)らから寄贈された梅樹360株をはじめ、様々な樹木を植え、文化元(1804)年に梅園として一般公開した。併せて園内の梅の実から梅干を作り、名物として販売、これも人気を呼び、梅園は広く知られるようになった。

●江戸庶民の行楽地
「梅は百花にさきがけて咲く」ことから、人気絵師、酒井抱一が百花園と命名したと伝えられている。この賑わいから、当時は、亀戸の「梅屋敷」に対して「新梅屋敷」と呼ばれた。

●東京の名所に
園内にはその後も名花名草が集められ、現在は春秋の七草、初夏の紫陽花、初秋は萩のトンネルと、折々の草花を楽しむことができる。自然のままの趣は「風流の極致」と、東京の名所になっている。



江戸時代の「梅屋敷」を復活！

●小村井梅園がモデル
江戸末期、香取神社の近くに「小村井梅屋敷」と呼ばれた梅園があった。安藤広重の「絵本江戸土産」にも取り上げられ、大勢の人が梅見を楽しむ様子が描かれている。

●梅は目線で楽しむ
香取神社の松原康行宮司

江戸末期、香取神社の近くに「小村井梅屋敷」と呼ばれた梅園があった。安藤広重の「絵本江戸土産」にも取り上げられ、大勢の人が梅見を楽しむ様子が描かれている。

広さは3300坪、園内には富士山に似せた築山や茶屋、池などが造られ、花の盛りには多くの人で賑わった。歴代将軍も訪れるほどで、将軍が愛でた「御成り梅」と称された木もあった。しかし、欧龍梅で知られた近くの「亀戸梅屋敷」と同様、明治43(1910)年の大洪水で、甚大な被害を蒙り、廃園となってしまった。

は、かねてから、この「小村井梅園」を何とか復活させたいと願っていた。平成6(1994)年、念願叶い、氏子の協力を得て、境内に選りすぐりの85種、120本の花梅の木を植え、「香梅園」と名付けて開園した。

香梅園の梅の木は高さが抑えられているのが特徴。「桜は見上げて観賞してもいいが、梅は間近で観賞するもの。香りもいっしょに楽しむため、人間の目線、つまり目通り」が一番いいのです」と松原宮司はいう。

一歩進むと違う種類の梅があり、空を背景にその色彩や香りの変化を楽しむのが最高の梅見といえる。ただ、枝垂れ梅だけは高くてもいい。花が目線まで垂れてくるからだ。これを基本に、梅の種類、お互いのバランス、開花時期などを考えて造園してあり、人気を呼んでいる。

また、木々には名札がつけられているので、同時に梅の知識も得ることができる。噂を聞きつけた梅ファンが「香梅園には、どんな梅があるのか」と興味津津でやって来るが、珍種も含めて多さに驚き、感激するという。

その梅が主を慕って京都から大宰府に飛んで来て、根を下ろしたという「飛梅」の伝説が今なお残る。梅の花をこよなく愛し、5歳の時に詠んだ、「うつくしや 紅の色なる梅の花 吾子が顔にもつけたくぞある」に因んだかわいいうちの子の像が、境内中央の心字池の脇にある。

●戦禍から復興
昭和20(1945)年の東京大空襲により、亀戸天神社は、御神庫1棟を残すまで焼失。その後、道真公を敬い、家紋も梅を使用している旧加賀藩前田家の子孫・前田利建氏が中心となって復興、梅も植樹し、現在、境内には約250本の梅がある。

心字池に架かる太鼓橋の参道、池の周り、参道の左右に藤棚があり、これらに沿って梅の木が植えられている。また、本殿の左右に柵囲いがあり、向かって右に紅梅、左に白梅があり、囲いには、入試合格の願かけをした「絵馬」がびっしり掛かっている。

梅は、50種以上あり、1本の木から紅と白が咲く「思いのまま」もある。